公立廃校 県内「36」

過去最多 全国2番目の多さ

11年度

2011年度に廃校になった県内の公立学校が36校あり、文部科学省が調査を始めた1992年度以来、県内では最も多かったことが31日までに分かった。全国でも北海道に次いで2番目に多い。少子化によって児童・生徒数が減少。小中学校の統廃合や県立高校再編が廃校の増加につながった。【28面に関連記事】

県教委施設課によると、内訳は小学校18、中学校11、高校7。高校は再編計画で募集停止し、最後の3年生が11年度末で卒業したことに伴う廃校。高校の廃校は調査開始以来、県内では初めて。ただ、数校を1校に統合する場合も、統合前の校数を廃校としてカウントしているため、実際の減少数は小学校12、中学校6、高校4の計22校となる。

この22校の校舎のうち18校は、調査した5月1日時点で利用計画がなかった。残りは1校が利用され、2校は計画があり、1校は解体されていた。体育館は地域の社会体育施設として利用されるケースが多く、利用計画がないのは2校だった。

36校の廃校のうち15校（高校含む）を占め、県内で最も多かった天草市教委は学校規模適正化推進計画（11～16年度）を策定し、小学校42校を17校に、中学校17校を13校（実施済み）に統廃合する予定。同市教委は「11年度はその一部で、これから小学校はさらに統廃合が進む。スクールバスを運行するなど通学手段を確保し、影響を最小限にとどめたい」としている。

（福井一基）

県内の公立校廃校

〝特殊仕様〟活用の壁に

大きすぎる規模、改修費も多額

少子化の影響で県内公立学校の統廃合が進む中、廃校後の校舎の利活用が全国で課題となっている。宿泊体験ができる交流施設や福祉施設などへの活用事例はあるものの、学校施設という〝特殊仕様〟のため、すぐには引き受け手が現れないケースも少なくない。【1面参照】

県内の活用事例としては、公民館や生涯学習センターなどの社会教育施設など公的施設が主流。教室をキクラゲの栽培室にした活用例も報告されている。

阿蘇市の交流拠点施設「やすらぎ交流館」は旧小池野小を利用。「防火用水になるプールもあるし、立地もいい。同じ規模の建物を同じ金額では建てられない」とメリット面を強調する。

ただ、2011年度に県内で廃校になった36校の校舎をみると、統合校として利用している校舎を除くと大半は「利用計画なし」。廃校後も校舎が現存する169校のうち26校が未利用で、うち21校は計画すらないままだ。

天草市教委は「建物の規模が大きすぎて、引き受け手が限られる」。企業誘致を働き掛けるあさぎり町は「製造ラインにとの声もあるが、耐震構造上、教室の壁を取り除けないので使えない」と話す。

3月末で閉校した山都町の旧大野小は築60年の木造。校舎のメンテナンスが必要になっても「用途が定まらない状態では補修も難しい」と悩ましげだ。用途次第では、大半の校舎で改修に相当な費用が必要となる。

最近廃校になった校舎ほど利用が進んでいない。特に11年度は廃校数が多いことから、県教委施設課は「さらに未利用施設が増えるおそれがある。地域に還元できる施設として生まれ変わらせてほしい」と話している。

（福井一基、林田貴広）

統廃合によって3月末に閉校した旧大野小の校舎。今後の活用法は未定のままだ＝山都町